

平成22年度 中央区立明石小学校 学校関係者評価報告書

評価委員 高松 朱美 牛嶋 智春 佐々木孝久 佐川千美代 大谷のぶ子
桑原 洋一 石井 吉郎 猿谷 勝実 矢田 雄滋

評価時期 平成23年2月

1 重点目標の評価

重点目標1について「体力づくり・健康づくりを推進する」

- 児童、保護者、教員ともに肯定的な評価が多く目標を達成したといえる。
- 校庭が無く、体育の授業を校外で実施しなければならないが、安全確保を含めて学校は十分な対応をしている。
- 隅田川テラスを利用した持久走の取組は体力の向上とともに地域とふれ合う機会にもなっている。
- △体育指導補助員の存在やドッジボールや金管演奏などの活動が一部の保護者に十分に知られていない面がある。今後、体力づくり・健康づくりについての取組の周知・理解をさらに図る必要がある。

重点目標2について「人とかかわる心をはぐくむ」

- 保護者、児童、教員ともに肯定的な評価が多く目標を達成したといえる。
- 幼稚園、小学校、特別支援学級が併設されていることは本校の特長でありメリットである。さまざまなかかわりを通して心をはぐくむことができている。
- あいさつ、言葉づかい、人とかかわることの基本は家庭である。保護者が範を示さなければならない。
- △校舎改築に伴い、幼稚園と小学校の仮校舎が分離したため、幼小の交流がやや減少したと感じ、残念に思っている保護者が存在する。

重点目標3について「確かな学力の向上を図る」

- 保護者、児童、教員ともに肯定的な評価が多い中で、保護者アンケートの一部に「よくわからない」が13.1%あった。
- 学校公開が年5回設定され、多くの保護者、地域住民等が参観した。ふだんの子どもたちのようすや学習状況の把握につながっている。
- 学校公開においてノートのとり方や漢字指導について、ていねいな指導がみられた。杉の子学級ではアイロンかけや洗濯ものたたみなど、生きる力につながる学習が展開されている。
- △校内での読書活動、複数教員による少人数指導、校内での言語環境の実際がわかりづらいと感じている保護者が存在する。

2 今後の改善に向けた意見

- 学校は保護者や地域への情報発信をさらに積極的に行い、教育活動に対する理解を深める。
- さまざまな面で地域や卒業生の協力を得ながら教育活動の充実を図り、かつ小学校と幼稚園との連携をさらに深めていく。

3 その他の意見

- 教員相互の評価や子どもから教員に対する評価があってもよいのではないか。
- 学校だよりの写真ページは地域から好評である。さらに充実してほしい。